JB カラコミュ!! Vol.22
2021年1月 発行
株式会社ジェイブレーン

『魅せる』『伝わる』色彩コミュニケーション!!

世の中の色には理由がある!?

どうして緑色なのに黒板と言われているの？

皆さんが子どもの頃から慣れ親しんでいる黒板。実際の色は緑色なのに、どうして黒板というのか疑問に思ったことはありませんか？

黒板が日本に誕生したのは江戸時代のことであり、寺子屋で使われていたそうです。当時はまだ黒板では無く塗板と呼ばれる物で、小さな木の板に墨汁や柿渋を塗り、そこに白墨で文字を書いて授業を行っていました。その後1872年に東京で師範学校が開校した際に、スコットさんというアメリカ人の先生がアメリカから現在の黒板を持ち込んだと言われています。この時の黒板は黒色で、英語の「black board」を直訳して「黒板」と呼ばれるようになりました。その後、師範学校を卒業した生徒達によって、黒板は全国の学校に広まっていきました。

しかし、昔はベビーブームもあり今と比べて１クラスの人数が多く60人程いたそうで、最前列の端の席の子どもは太陽の光で黒板が反射して文字が見えなくなってしまい困ったそうです。そこで、黒色よりも光の反射を抑えることができ、白色のチョークが見やすくなる深緑色の黒板が普及しました。

また、当時は黒色の染料が入手困難であったことや、目に悪く見づらいことなどが挙げられたため黒色の黒板はやめ、深緑色が採用されるようになったそうです。緑色は自然をイメージさせるため、心や体を癒やす効果もあります。更に目にも優しく、長時間見る黒板の色としては最適だと考えられています。他にも黒板が緑色になった理由として、戦後に明るい雰囲気を持たせたかったことや鎮静作用等の心理的効果など、諸説あるようです。

こういった、色がもたらす効果により人の行動や感じ方にも影響が出ることを『**色彩心理学**』といいます。裏面の「デザインの種」では、色彩心理学を利用した配色の例をご紹介しています。

デザインの種

今回のテーマ：
「色が与えるイメージの違い」

表面では色彩心理学に少し触れましたが、実際に身近にあるものを例に挙げて『色』が人の行動にどのような影響を与えているのかを見ていきましょう！

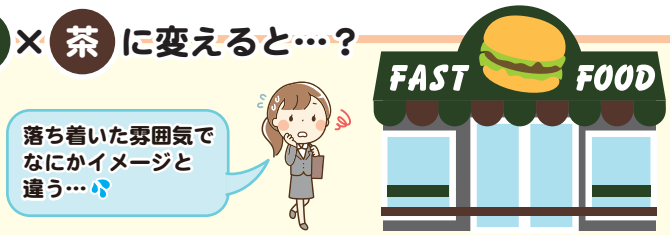
ファーストフード店の「マクドナルド」では**赤色**と**黄色**が使われていますが、**赤色**は緊急性を演出するのに使われ、**黄色**は注意喚起によく使われる色です。つまり、これらの色は緊急性のあるお客様を行動させることに適した色で、「今すぐに空腹を満たしたい！」というお客様を刺激するために**赤色**と**黄色**が使われています。

マクドナルドのようなファーストフード店の明るい色味や雰囲気は、人の流れを活性化させ勢いを感じさせるものです。このような色づかいは時間経過が早く感じられるため、回転率を上げることにも繋がってきます。

赤×黄のファーストフード店が与えるイメージは？

・目立つ　・値段が安そう　・食欲をそそる
・楽し気な雰囲気を感じさせる　…等

緑×茶に変えると…？



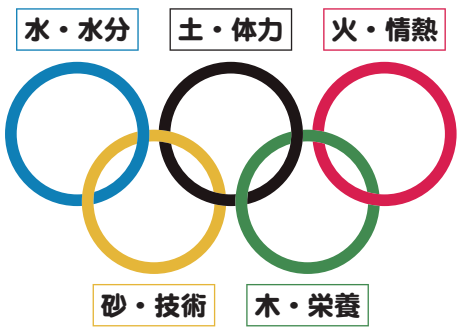
落ち着いた配色を採用しているお店の例として、カフェチェーン店の「スターバックス」があります。ロゴマークに使われている**緑色**や店内の**茶色**・**黒色**のイメージがあると思いますが、**緑色**・**茶色**はリラックス効果、**黒色**には高級感を感じさせる効果があると言われています。だからこそ人は潜在的に癒しを求めてスターバックスに長居してしまうようです。

気付かないうちに人は『色』によって気持ちや行動まで操られているのですね。皆さんも色彩心理学を上手く使ってみて下さいね。

イロイロ雑学

皆さんご存知のオリンピックのシンボルである５輪マーク。輪が５つの理由は、世界５大陸の「ヨーロッパ大陸」「アメリカ大陸」「アフリカ大陸」「アジア大陸」「オセアニア大陸」の５つの大陸を意味しています。５つの大陸、世界中が連帯し繋がっている大会であるということ表す輪が重なり合った配置はWORLD(世界)の頭文字であるWの形になるよう配置されています。

そしてその色は「５つの自然現象(**青**＝水、**黄**＝砂、**黒**＝土、**緑**＝木、**赤**＝火)」と「スポーツの５大鉄則・**青**＝水分、**黄**＝技術、**黒**＝体力、**緑**＝栄養、**赤**＝情熱」を意味していると言われています。またこれらの説に加え、「下地の色である白に**青**・**黄**・**黒**・**緑**・**赤**の計６色で、世界の国旗のほとんどを描くことができる」ことからこの５色が選ばれたという説もあります。



色彩を使った印刷物で、より良いコミュニケーションを！　次回も Let's カラコミュ!!